

市民協働でつくる まちづくりの拠点 ワークショップ



vol.1 「活動」について考える

9月24日

ゆめりあうじ

中宇治地域の新たな市民活動の拠点づくりを市民協働で進めるためのワークショップの第1回目を行いました。「活動について考える」がテーマの今回は、兵庫県尼崎市を中心にさまざまな地域プロジェクトに関わっておられる藤本遼さんによる話題提供から発想のヒントを得たのち、6班に分かれてグループワークを行いました。

「面白そう」から始める

藤本さんは、尼崎市出身・在住で、「株式会社ここにある」の代表取締役を務められています。今回の話題提供では、「面白そう」から始まり地域を巻き込むこととなった、さまざまなプロジェクトを紹介していただきました。偶然、仏教寺院の住職さんと仲良くなり、「お寺でカレーを食べたら面白いのでは?」と思いつき、「インド文化を学べたらいい」と発想を広げて始まった「カレー寺」。[いろいろな人が来たら面白い]けど「まちの活動に障がい者の姿が見えない」と気づき、従来の行政主催の活動を大きく変えて始動させた「ミーツ・ザ・福祉」。いずれも、藤本さんの思いつきや気づきを契機に始まったものですが、想いを持って取り組んでいる間に、地域全体のプロジェクトになっていったといいます。

お話の最後に、「日本には『お客さん』が増えているのではないかと投げかけられました。誰かが作ってくれて、管理・運営してくれるのではなく、自分のまちに主体的にかかわりを作っていくことで、行政でなくとも公共のためになる場所や活動を生み出していけるのだと話してくださいました。今回の参加者の方々も、活動と発想の斬新さに驚きつつ、「そんなことから始めていいんだ」と考え方を切り替えられていました。



グループワークへ



今回は、世代ごとに6班に分かれ、中宇治地域で「誰が」「いつ」「何を」できたらいいかについて話し合いました。ひとりひとりが想像したものをグループ内で共有し、議論の中でより具体的な活動をイメージしながら、最終的には各班で2つずつ「あったらいい活動」を決めて全体に発表しました。グループワーク中には、体を乗り出し、熱心に意見を交わす姿が見られました。



2023年9月24日
13時30分～16時30分
会場:ゆめりあうじ
参加者:25名
ファシリテーター:6名
<レクチャー>

藤本遼(株式会社ここにある・代表取締役)



それぞれの「あったらいい活動」

1班は高校生や大学生が中心で、「面白そう」に忠実なアイデアが多く出てきて、作成されたシートはイラストで溢れていました。「交流を通じた体験」がこの班のキーワードとなっていました。

同じく学生中心の2班は、参加者のアイデアが書かれた付箋の数が圧倒的に多く、他の班から見学に来るほど。アルバイトやボランティア、授業など学生ならではの経験をもとに、身近な「誰か」を想像して具体的な議論を進めていました。

働く世代中心の3班は、参加者同士で互いの意見を引き出し合いながらワークを進めていました。また、子育てだけでなく介護なども含めた「ケア」という話題が出ていたのが印象的でした。

4班も働く世代が中心で、子育てを中心とした多世代交流が話題に上がりました。子育て中のパパが地域との繋がりを持ちづらいという経験から、集まることができる場所があるだけではなく、**大人の得意なことを活かせる**ことが交流を促すのではという話になりました。

シルバー世代の5班は、自身が若かった頃の気

持ちを想像しながら、年齢や時間まで具体的に描いた活動を挙げていました。また、**同年代でも、必ずしも求めるものが同じわけではない**という気づきを得ていました。

6班もシルバー世代中心です。早い段階で模造紙が付箋で溢れ、そこから発展して「誰が、の部分はほんとにこの人たちだけでいいの?」「こういう人もいいのでは?」と、班の中でも質問を投げかけ合う姿が見られました。



最後に、藤本さんより講評をいただきました。6班が挙げた「本」にふれられ、地域の人が好きな本を持ち寄って運営する私設図書館や、店主が日替わりの本屋の事例をご紹介いただきました。また、3班の「既存のイベントに乗っかる」ことも、最初何かを始めるためにはいい視点だと指摘されました。

現在の場所や仕組みありきで考えるのではなく、自分たちがやりたいことを具体的にイメージしていくことで、新鮮な視点から拠点に必要なものと考えられるワークショップとなりました。今回の内容は、次回以降も立ち返るべきポイントとなっていきます。



各班の発表内容

だれが? いつ? なにを?

- 1班
 - 学生が 長期休暇に 交流しながら学ぶ
 - みんなで いつでも たのしくつくる・たべる
- 2班
 - 宇治市に住む外国人が 行事ごとのイベントで 日本の文化を学び、自国の文化を共有する
 - 市民・高校生・大学生・アーティストが 3年に1度、秋に 宇治トリエンナーレをする
- 3班
 - 子育てに関わる人たちが 既存のイベントで 自分の得意を披露する
 - 土地を持って余っていて有効活用したい人が 毎日 子どもと高齢者がいられる居場所をつくる
- 4班
 - 留守番する子ども、大学生や高齢者が 放課後や休日に 勉強したり、ボードゲームや昔の遊びで交流する
 - 子育て中のパパ・ママが 休日のお昼過ぎ～夕方に 大人の得意で子どもと一緒に遊ぶ
- 5班
 - 30～40代の現役サラリーマンが 仕事が休みの日に 講座をうけられる
 - 65歳以上のシルバー世代が 季節に合わせて10時から16時に サークル活動をできる
- 6班
 - 本好きな方が 日曜・祝日も 読書だけでなく、自習・おしゃべりできたり 子育てママ・パパが気を抜ける
 - 自治会やサークルの人が 毎日・夜間でも 会議をしたり、歌や演奏の練習をしたり、軽い運動をしたりできる



今後のワークショップ予定

10.21 13:30～16:30

#2 「場所」について考える

会場：ゆめりあうじ

11.18 13:30～16:30

#3 「しくみ」について考える

会場：ゆめりあうじ

市民協働でつくるまちづくりの拠点

ワークショップ | 中宇治地域

主催：宇治市市民協働推進課

発行日 2023.10.03